

事業者団体調査(社団法人日本介護福祉士会)

質問1 貴団体における昨年度の介護職員を対象とした研修等について、その名称、対象者、内容、実施回数等について、記載してください。										
実施主体	1 名称	2 対象者	3 内容	4 年間実施回数	5 実施力所数	6 時間数(期間)	7 年間受講者数	8 費用(1人当たり)	8 費用(総事業費)	9 その他
日本介護福祉士会	全国大会	・社団法人日本介護福祉士会会員 ・社会福祉協議会、行政機関等の役職員 ・介護福祉士養成校、福祉関係の学生および教職員 ・福祉・保健、医療関係者、その他一般	記念講演、基調講演、特別講演、シンポジウム、分科会 等	1回	1カ所	11時間(2日)	1,000人	会員 3,000円 一般 10,000円	8,695,340円	-
	ブロック研修会	・社団法人日本介護福祉士会会員 ・社会福祉協議会、行政機関等の役職員 ・介護福祉士養成校、福祉関係の学生および教職員 ・福祉・保健、医療関係者、その他一般	記念講演、基調講演、シンポジウム、分科会 等	1回	5カ所	1回あたり 8~12時間(1~2日)	1,686人 (5ブロック合計)	会員 3,000円 一般 5,000円	16,155,635円	-
	初任者研修会	介護福祉士資格取得後2年未満の者	・介護福祉士の専門性と職業倫理 ・介護福祉士の法律と関連する制度政策 ・介護福祉士の仕事とコミュニケーション ・介護福祉士の基本的態度 ・介護福祉士のための介護技術 ・介護過程の展開 ・記録と報告 ・介護福祉士のための医学知識 ・福祉用具の意義と活用	47回	47カ所	21時間(3日)	1,410人	10,000円~20,000円	-	-
	介護福祉士実習指導者講習会	介護福祉士として3年以上実務に従事した経験のある者であって、実習施設において実習指導者となる者及び実習指導者を担っている者	・介護の基本 ・実習指導の理論と実際 ・介護過程の理論と指導方法 ・スーパービジョンの意義と活用及び学生理解 ・実習指導の方法と展開 ・実習指導における課題への対応 ・実習指導者に対する期待	92回	92カ所	25時間(4日)	4,767人	会員 20,000円 非会員 31,000円	160,957,634円	-
	(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修	原則として、以下3項目全てを満たす者 ①5年以上高齢者介護の実務に就き、介護施設・認知症グループホーム・訪問介護事業所等で現在認知症ケアを実践している者 ②受講終了後に学びを活かした認知症介護の実践を行い、今後、支部活動におけるリーダー的役割を担うことのできる者 ③各支部より推薦を受けた者	①生活支援における『生活』の意味するところ、介護福祉士としての目指すべき認知症介護の基本理念についての理解を深める。 ②認知症高齢者の行動や心理について、相互交流の観点から関わる介護者側の行為の意味するところの理解に努めると共に、自ら持ち寄った事例等を基とした各種検討の積み重ねにより、認知症介護の実践的理解を深める。 ③自らの実践を言語化する力をつけると共に、介護福祉士固有の認知症介護の専門性について理解を深める。	2回	2カ所	33時間(5日)	56人	会員 50,000円 非会員 100,000円	2,848,300円	-
	リーダー研修会(初任者研修講師養成研修会)	以下の①及び②を満たす者、又は②及び③を満たす者とする。 ①介護福祉士資格取得後、現場経験(介護職、ケアマネジャー、相談業務、管理職、教育職)5年以上 ②支部推薦 ③その他、当該科目の担当に適任であると認められる者	・初任者研修の位置付け及び概要について ・各科目の目的とねらい及びシラバス作成のポイント ・模擬講義 等	1回	1カ所	13.5時間(2日)	100人	会員 10,000円 非会員 20,000円	1,335,812円	-
	リーダー研修会(ファーストステップ研修講師養成研修会)	以下の①及び②を満たす者、又は②及び③を満たす者とする。 ①介護福祉士資格取得後、現場経験(介護職、ケアマネジャー、相談業務、管理職、教育職)5年以上 ②支部推薦 ③その他、当該科目の担当に適任であると認められる者	・ファーストステップ研修の概要について ・ファーストステップ研修の実際 ・ケア領域教授のポイントについて ・連携領域教授のポイントについて ・運営管理基礎領域教授のポイントについて ・ファーストステップ研修講師として教授法を学ぶ 等	1回	1カ所	32時間(5日)	33人	50,000円	2,127,499円	-
	ファーストステップ研修	介護福祉士資格取得後、2~3年の実務経験をもつ者	・利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開 ・介護職の倫理の実践的理解と展開 ・コミュニケーション技術の応用的な展開 ・ケア場面の気づきと助言 ・家族や地域の支援力の活用と強化 ・職種間連携の実践的展開 ・観察・記録の的確性とチームケアへの展開 ・チームのまとめ役としてのリーダーシップ ・セーフティマネジメント ・問題解決のための思考法 ・介護職の健康・ストレスの管理 ・自職場の分析	15回	15カ所	200時間(13日)	363人	70,000円~80,000円	-	-
介護技術講習主任指導者講習会	社団法人日本介護福祉士会の会員であり、次の各号のいずれかに該当する者で、都道府県支部会長より推薦があった者 ア 指定養成施設等において社会福祉士介護福祉士学校養成施設指定規則(昭和62年厚生省令第50号)別表第4に定める専門科目を5年以上教授(指導)した経験を有する者 イ 介護福祉士の資格を得た後10年以上実務に従事した経験を有する者 ウ 厚生労働大臣がア及びイに掲げる者と同等以上の知識経験を有すると認められた者	・介護過程の展開 ・コミュニケーション技術 ・移動の介助等 ・排泄の着脱の介助 ・衣服の着脱の介助 ・食事の介助等 ・入浴の介助等 ・総合評価	1回	1カ所	14.5時間(2日)	48人	28,000円	-	-	

事業者団体調査(社団法人日本介護福祉士会)

質問1 貴団体における昨年度の介護職員を対象とした研修等について、その名称、対象者、内容、実施回数等について、記載してください。										
実施主体	1 名称	2 対象者	3 内容	4 年間実施回数	5 実施力所数	6 時間数(期間)	7 年間受講者数	8 費用(1人当たり)	8 費用(総事業費)	9 その他
日本介護福祉士会	介護技術講習指導者養成講習会	高等学校、旧制高等学校若しくは旧制高等女学校を卒業した者又はこれと同等の学力があると認められる者で、5年以上実務に従事した経験を有する者	・介護過程の展開 ・コミュニケーション技術 ・移動の介助等 ・排泄の着脱の介助 ・衣服の着脱の介助 ・食事の介助等 ・入浴の介助等 ・総合評価	6回	6力所	14時間(2日)	110人	10,000円～20,000円	-	-

質問2 研修等の実施にあたり、何か課題はありますか。	質問3 できるだけ多くの介護職員が参加するためにどのような工夫をしていますか。	質問4 できるだけ多くの介護職員が参加するためにどのような支援が必要だと思いますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・長期にわたる研修では、事業所・施設等から理解を得にくいことや、連続した休みを取れないといった理由により参加者の確保が困難である。 ・大規模研修では、会場費用が高いため採算がとれない。 ・中央に出なくとも、地域において一定の質が保たれる研修を行うことが重要であり、そのために講師の養成や、研修ガイドラインの作成、教材開発等を充実させることが必要となる。 ・研修参加や資格取得に対するメリット(例えば介護報酬上の評価など)の向上が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講料をできる限り安く設定する。 ・参加しやすい日程とする。 ・中央において講師養成研修を行うことにより、どの支部において研修を受講しても、一定の質が保たれるようにしている。 ・各研修における標準カリキュラムの策定や、テキスト等の教材開発を行い、各支部に提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加にあたり、個人負担を軽減するため事業所・施設からの支援が必要。(代替職員の確保、研修受講料の補助等)また、これらについては、国からの支援も検討すべきである。 ・教育訓練給付金の活用や、新たな助成金を設けることによる支援。 ・事業所・施設などによる介護職員のキャリアアップの仕組み構築や、職員の能力開発を支援することへの理解。

事業者団体調査(日本ホームヘルパー協会)

実施主体	質問1 貴団体における昨年度の介護職員を対象とした研修等について、その名称、対象者、内容、実施回数等について、記載してください。									
	1 名称	2 対象者	3 内容	4 年間実施回数	5 実施力所数	6 時間数(期間)	7 年間受講者数	8 費用(1人当たり)	8 費用(総事業費)	9 その他
日本ホームヘルパー協会	日本ホームヘルパー協会指導者研修会	訪問介護事業所、協会各支部で指導的な役割を担っている者	<ul style="list-style-type: none"> 「要介護認定基準の変更のねらいについて」 「介護人材確保対策について」 「訪問介護員の専門性と人材開発」 	1回	1カ所	5時間(1日)	51人	2,000~5,000円	60,000円	-
	日本ホームヘルパー協会ブロック研修会	訪問介護員、サービス提供責任者、訪問介護業務関係者等	<ul style="list-style-type: none"> 【埼玉県】 ・訪問介護における行政の課題 ・ディスカッション ホームヘルパーの声を聴く ・認知症について(ホームヘルパーに求めるもの) ・ホームヘルパーの専門性 ・サービス提供責任者の役割の再認識 ・みんなで考えようホームヘルパーの処遇改善 【山梨県】 ・ヘルパーの処遇改善と今後の動向 ・ヘルパーのストレスの現状 ・おむつの当て方講座 ・ヘルパーのメンタルヘルス ・ヘルパーの専門性とは…? ~みんなで考える専門性 【福岡県北九州市】 ・物忘れと軽度認知障害(MCI)の違いについて ・認知症高齢者の理解に基づいた生活のアセスメントと支援~求められる職業倫理・法令遵守・接遇~ ・精神障害者の理解と対応 ・僕の相棒、ヘルパー ・ストレスマネジメント 	3回	3カ所(埼玉県、山梨県、福岡県、北九州市)	9時間~11時間(2日)	340人	0~3,000円	1,500,000円	-
	ホームヘルパー中央研修会	訪問介護員、サービス提供責任者、訪問介護業務関係者等	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの実践発表と事例研究 ・「専門職として、ご利用者との距離のととり方」 ・「障害者自立支援法 今後の方向性について」 ・「ホームヘルパーの専門性を高めるために」 ・「サービス提供責任者としての業務管理と指導方法について」 ・「日本のホームヘルパーをどうする！」 	1回	1カ所	11時間(2日)	121人	0~3,000円	1,400,000円	-
	日本ホームヘルパー協会 出前講座	パート、登録で働く訪問介護員	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー職を巡る今後の動向 ・専門職として知っておくべき知識と倫理 ~法令遵守と接遇マナーを通して~ (倫理及び法令遵守、訪問介護員の接遇マナー、利用者のプライバシー保護) ・ヘルパーのリスクマネジメント ~事故の発生と再発防止、緊急時の対応を通して~ (事故の発生、再発防止、発生時等緊急時の対応) ・認知症の理解とケア 	5回	5カ所	5時間(1日)	357人	0~2,000円	428,000円	-

質問2 研修等の実施にあたり、何か課題はありますか。	質問3 できるだけ多くの介護職員が参加するためにどのような工夫をしていますか。	質問4 できるだけ多くの介護職員が参加するためにどのような支援が必要だと思いますか。
<p>・平日昼間は、受講生が参加しにくい。土・日、夜間(就業後)に実施し参加者の確保に努めているが、参加する側からすると、休日を潰して参加するため、負担感は大きい。</p> <p>・当協会では、訪問介護員向けの現任研修を実施しているが、事業所の支援がなく、受講したくても、受講できないといった声を聞いている。</p>	<p>・当協会では、訪問介護員の多数を占める対象として、登録・パートヘルパー向けの出前講座に力を入れている。</p> <p>・各地域で訪問介護員の研修実績を有する団体と共催することで、各訪問介護事業所に低コストで広報を図ることができるため、受講料の引き下げに繋げることができた。</p>	<p>・研修の参加については、時間及び費用の面でヘルパー個人に負担が強いられているのではなく、事業所の理解が進み、事業所として参加を後押しする支援(代替人員の確保等人員面、金銭面)の枠組みが必要である。</p> <p>・また、事業所を支援する国、県、市町村の支援も必要である。</p>

事業者団体調査(UIゼンセン同盟日本介護クラフトユニオン)

実施主体	質問1 貴団体における昨年度の介護職員を対象とした研修等について、その名称、対象者、内容、実施回数等について、記載してください。									
	1 名称	2 対象者	3 内容	4 年間実施回数	5 実施力所数	6 時間数(期間)	7 年間受講者数	8 費用(1人当たり)	8 費用(総事業)	9 その他
UIゼンセン同盟 日本介護クラフトユニオン	ケアマネ受験対策講座(講義編)	組合員	・試験の出題傾向・合格基準 ・合格に向けての「効率のよい独学方法」「理解のポイント」など	4回	4カ所	6時間(1日)	100人	5,000円	600,000円	交通費自己負担
	ケアマネ受験対策講座(模擬試験編)	組合員	公開模擬試験の体験により、受験時間の配分、試験解放テクニックの確認。又、各自の弱点や見落とし点の確認を行う。	4回	4カ所	6時間(1日)	100人	5,000円	600,000円	交通費自己負担
	介護福祉士受験対策講座(講義編)	組合員	「重点確認講習会」 ・効率のよい学習方法の理解、介護技術分野の要点理解 ・制度を中心としたかかわり方、視点、判断基準の理解など、重点整理のポイント	4回	4カ所	6時間(1日)	100人	5,000円	600,000円	交通費自己負担
	介護福祉士受験対策講座(模擬試験編)	組合員	「模擬試験、解説講習」 ・受験時間の配分、補足講義と重点ポイントの確認 ・保健医療サービスの知識等、福祉サービスの知識、試験直前の受験学習ポイント	4回	4カ所	6時間(1日)	100人	5,000円	600,000円	交通費自己負担
	ステップアップ研修会	組合員	今さら聞けない常識・マナー	1回	1カ所	1.5時間	50人	0円	400,000円	・その他労働組合研修との組合せで行っている。 ・交通費や食事代、会場、講師料など全て含まれている。
	ステップアップ研修会	組合員	講演会「日々の健康の守りかた」～ストレス時代を生き抜くためには～(クリニック院長)	3回	3カ所	1.5時間	150人	0円	1,500,000円	・その他労働組合研修との組合せで行っている。 ・交通費や食事代、会場、講師料など全て含まれている。
	ステップアップ研修会	組合員	介護現場の接遇のスキルアップ(講義と実技トレーニング)	1回	1カ所	1.5時間	80人	0円	500,000円	・その他労働組合研修との組合せで行っている。 ・交通費や食事代、会場、講師料など全て含まれている。
	ステップアップ研修会	組合員	古武式介護(腰痛予防など)	10回	10カ所	2時間	800人	0円	5,000,000円	・その他労働組合研修との組合せで行っている。 ・交通費や食事代、会場、講師料など全て含まれている。
ステップアップ研修会	組合員	心とからだの健康づくり(腰痛予防、気功など…)	2回	2カ所	2時間	60人	0円	800,000円	・その他労働組合研修との組合せで行っている。 ・交通費や食事代、会場、講師料など全て含まれている。	

質問2 研修等の実施にあたり、何か課題はありますか。	質問3 できるだけ多くの介護職員が参加するためにどのような工夫をしていますか。	質問4 できるだけ多くの介護職員が参加するためにどのような支援が必要だと思いますか。
・組合員を対象に開催しているが、物理的に開催場所がきめ細かく対応できていない。 ・又、費用面でも公平性(参加できない組合員に対して)の問題も残ってしまう。少なくとも全国県単位での開催が望まれる。	・開催場所の設定を、交通の便の良い所や、開催場所を移動するなどしている。 ・又、曜日の設定など、現場の職員と相談しながら、決めている。	・各自治体と共同開催など、各地(市町村単位)での研修開催 ・又、資格受験に関しては、試験回数を増やすなど、受験の機会に対しての支援、経費負担に対する支援など

事業者団体調査(全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会)

実施主体	質問1 貴団体における昨年度の介護職員を対象とした研修等について、その名称、対象者、内容、実施回数等について、記載してください。									
	1 名称	2 対象者	3 内容	4 年間実施回数	5 実施力所	6 時間数	7 年間受講者数	8 費用(1人当たり)	8 費用(総事業費)	9 その他
全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会	ライフサポートワークセミナー	管理者、計画作成担当者(ケアマネ)、介護職員、看護職員	1. 小規模多機能型居宅介護とは 2. ケアマネジメント論 3. 地域生活支援 4. チームケア 5. ライフサポートワークⅠ 6. ライフサポートワークⅡ 7. ライフサポートワークⅢ	5回	5カ所	12時間(2日)	250人	10,000円	3,500,000円	-
	認知症介護実践者研修	管理者、計画作成担当者(ケアマネ)、介護職員、看護職員	・認知症介護の振り返り ・認知症介護の理念「認知症の歴史・介護の変遷」 ・認知症高齢者の理解と生活の捉え方Ⅰ「生活の捉え方」 ・認知症高齢者の理解と生活の捉え方Ⅱ「家族の理解・高齢者との関係の理解」 ・認知症高齢者の理解と生活の捉え方Ⅲ「心理的理解」 ・認知症高齢者の理解と生活の捉え方Ⅳ「医学的理解」 ・認知症高齢者の理解と生活の捉え方Ⅴ「意志決定と権利擁護」「生活の質の保障とリスクマネジメント」 ・認知症高齢者の理解と生活の捉え方Ⅵ「認知症高齢者の理解に基づいた生活のアセスメントと支援」 ・認知症高齢者の理解と生活の捉え方Ⅶ「演習・ディスカッション」 ・認知症高齢者の生活支援と方法Ⅰ「人的環境と住居環境を考える」 ・認知症高齢者の生活支援と方法Ⅱ「生活支援の方法」 ・認知症高齢者の生活支援と方法Ⅲ「地域社会環境を考える」「生活環境を考える」 ・認知症高齢者の生活支援と方法Ⅳ「これからの認知症介護とは」	2回	2カ所	24.5時間(3日)	100人	40,000円 (一部30,000円、40,000円)	4,000,000円	-
	小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	管理者、計画作成担当者(ケアマネ)、介護職員、看護職員	・総論・小規模多機能ケアの視点Ⅰ「小規模多機能とは何か」 ・総論・小規模多機能ケアの視点Ⅱ「制度的理解」 ・ケアマネジメント論とチームケア「小規模多機能のケアマネジメント」「ケアマネジメント論」「チームケア」 ・パネルディスカッション「小規模多機能型居宅介護の実践」 ・小規模多機能のライフサポートワークⅠ「地域生活支援」 ・小規模多機能のライフサポートワークⅡ「居宅介護支援計画作成の実践」 ・小規模多機能のライフサポートワークⅢ「居宅介護支援計画作成の実践」	2回	2カ所	12.5時間(3日)	91人	20,000円 (一部5,000円)	2,000,000円	法定研修としての対象は、ケアマネジャーであるが、フォローアップとして上記対象者を含み実施。
みやぎ小規模多機能型居宅介護連絡会	小規模多機能型居宅介護ってなんだろう	小規模多機能型居宅介護職員、介護保険事業者、一般	小規模多機能型居宅介護についての講演・実践報告・パネルディスカッション	1回	6カ所	5時間(1日)	600人	500円	400,000円	-
	小規模多機能型居宅介護事業所職員研修会	小規模多機能型居宅介護職員	「その人を支えるということ～ひつじ雲の実践～」 講師：特定非営利活動法人 楽 理事長 柴田 範子	1回	1カ所	2時間	30人	0円	30,000円	-
	会員向け職員研修会	小規模多機能型居宅介護職員	「小規模多機能型居宅介護の実践発表」	1回	2カ所	2時間(1日)	300人	0円	3,000円	-
福井県小規模多機能型居宅介護事業所連絡協議会	介護従事者の集い	小規模多機能型居宅介護に従事する介護職員	①小規模多機能型居宅介護について ②グループディスカッション(日々の課題について) ③小規模多機能型居宅介護の事業所研究発表	1回	1カ所	3.5時間	35人	0円	10,395円	-
	介護職の小規模多機能型居宅介護の現場職員研修	小規模多機能型居宅介護に従事する介護職員	①小規模多機能ケアの視点 ②地域での暮らしを支える ③小規模多機能型居宅介護のチームのケア ④認知症ケアに携る者として ⑤小規模多機能型居宅介護のケアマネジメント	2回	2カ所	15時間	40人	0円	558,135円	-
	認知症の人と家族との連携	小規模多機能型居宅介護に従事する者、他	①認知症の人とみんなのサポートセンターの活動内容、活動を通じて	1回	1カ所	3時間	20人	0円	141,083円	-
	介護職員のための認知症の理解	小規模多機能型居宅介護に従事する者、他	①認知症の病態 ②認知症の検査方法について ③認知症の特徴について ④認知症の対応方法について	1回	1カ所	3時間	30人	0円	116,753円	-
大牟田市介護サービス事業者協議会 地域密着型サービス・介護予防事業研究会	大牟田市小規模多機能連絡会研修会	小規模多機能型居宅介護事業所職員	小規模多機能型居宅介護の向上のために 1)「ライフサポートワーク」とは 2)ライフサポートプランならびに介護記録の運用について	1回	1カ所	2時間(1日)	68人	0円	30,000円	-
	大牟田市小規模多機能型居宅介護実践事例発表会	小規模多機能型居宅介護事業所職員	小規模多機能型居宅介護の実践(4事例)を通して現場スタッフが遭遇する課題や問題の解決の糸口を探り、そして感動を交流します。 ○座長：大谷のみ子氏(グループホームふぁみりえ ホーム長) ○アドバイザー：川原秀夫氏(全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会代表) 他	1回	1カ所	2時間	96人	0円	86,000円	-
	霧島市と大牟田市の小規模多機能型居宅介護連絡会交流会	小規模多機能型居宅介護事業所職員	1)小規模多機能型居宅介護の事例発表・意見交換会・懇親会 2)事業活動・施設の視察	1回	1カ所	6時間(1泊2日)	25人	1,000円	30,000円	-

事業者団体調査(全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会)

実施主体	質問1 貴団体における昨年度の介護職員を対象とした研修等について、その名称、対象者、内容、実施回数等について、記載してください。									
	1 名称	2 対象者	3 内容	4 年間実施回数	5 実施力所	6 時間数	7 年間受講者数	8 費用(1人当たり)	8 費用(総事業費)	9 その他
霧島市小規模多機能ホーム連絡会	小規模多機能居宅介護支援事業所人材育成事業	小規模多機能ホーム、グループホーム、認知症デイサービス、地域包括支援センター、市役所職員	○講演「認知症ケアの理念」、演習 ○講演「本人の望む暮らしを支える視点」、演習	4回	1カ所	8時間(2日)	137人	0円	326,300円	-
	介護なんでも110番解説研修	小規模多機能ホーム、グループホーム、認知症デイサービス、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、有料老人ホーム、市役所職員	○講演「相談援助基本的知識及び技術」、演習 ○講演「地域で暮らし続けるために」	2回	1カ所	4時間(2日)	72人	0円	200,995円	-
	大牟田市・霧島市小規模多機能ホーム連絡会交流会	小規模多機能型ホーム、地域包括支援センター、市役所職員	○事例発表	1回	1カ所	4.5時間	66人	0円	30,000円	-
	九州ブロック事業所連絡会	小規模多機能ホーム、地域包括支援センター、市役所	○事例発表	1回	1カ所	4.5時間	55人	0円	50,000円	-
久留米市介護福祉事業者協議会小規模多機能部会	バリデーション研修	認知症介護に関わるスタッフ	バリデーションを理解し、現場での実践につなげることを目的に、3回にわたり、バリデーションについて講義や演習を行った。	3回	1カ所	21時間(3日)	60人	0円	80,000円	-
	センター方式研修	介護に関わるスタッフ	センター方式について学び、各事業所での実践に結び付けることを目的に、センター方式の理解から、事例発表までを行った。	3回	1カ所	21時間(3日)	60人	2,000円	-	-
	レクリエーション研修	現場スタッフ	高齢者向けのレクリエーションの実演	1回	1カ所	2時間(1日)	27人	0円	10,000円	-
福岡市小規模多機能ケアネットワーク	介護保険制度改正についての説明、自治体との意見交換会	管理者ならびに現場職員	福岡市役所監査指導課より制度改正に関する説明意見交換会	1回	1カ所	2時間(1日)	30人	0円	0円	-
	介護職員同士で語り合おう!	現場職員	グループワークで日々を振り返り今後に活かす職員同士の仲間作り	1回	1カ所	2時間(1日)	40人	0円	0円	-
	ライフサポートワークセミナー	介護支援専門員、現場職員	ライフサポートワークについての理解を深める	1回	1カ所	11時間(2日)	30人	4,000円	177,500円	-
	自分たちの小規模多機能を知ろう!	管理者・現場職員	実践発表、グループワーク	1回	1カ所	2時間(1日)	30人	0円	0円	-
	社会福祉協議会と民生児童委員の役割	現場職員	社会福祉協議会の活動内容や課題、展望について 民生児童委員の活動内容や連携等について	1回	1カ所	2時間(1日)	30人	0円	3,500円	-
	霧島市、鹿児島市、宮崎市、久留米市、福岡市事業者連絡会交流会	管理者、現場職員	霧島市にて実践報告会 意見交換会 仲間作り	1回	1カ所	10時間(2日)	22人	25,000円	0円	-
	認知症の基礎理解	現場職員	認知症介護指導者より認知症についての講義	1回	1カ所	2時間(1日)	40人	0円	4000円	-
	事例検討会	現場職員	事例検討会 それぞれの事業所で抱えている問題	1回	1カ所	2時間(1日)	30人	0円	0円	-
	小規模多機能とは	現場職員	小規模多機能型居宅介護について理解を深める	1回	1カ所	2時間(1日)	40人	0円	0円	-
	鹿児島市小規模多機能ホーム連絡会	鹿児島市小規模多機能ホーム連絡会	小規模多機能型居宅介護について、ケアマネジメントについて、認知症について、地域で継続して暮らし続けるために	9回	5カ所	45時間(10日)	100人	500円	80,000円	-
長崎市小規模多機能連絡会	長崎小規模連絡会 現場職員向け研修会	管理者、介護職員他	・認知症ケア、記録のとり方、行事のあり方等現場職員にとって業務上抱えている課題をテーマにとりあげて行っている。	8回	1カ所	1回につき2時間	180人	0円	-	-

事業者団体調査(全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会)

実施主体	質問2 研修等の実施にあたり、何か課題はありますか。	質問3 できるだけ多くの介護職員が参加するためにどのような工夫をしていますか。	質問4 できるだけ多くの介護職員が参加するためにどのような支援が必要だと思いますか。
全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・研修講師の確保、確保費用 ・研修会の企画、運営に関する事務負担、費用負担が大きく、継続的に実施していくことが難しい ・介護職員が個人負担で参加する場合の費用 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア、高齢者福祉など、介護福祉にかかわる基礎部分を取り上げ、興味関心を持てるような内容を心がけている。 ・介護職員を対象とした場合は、参加費を1,000円程度に抑えるなど、費用負担の軽減(H20年度)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より身近な地域での開催(都道府県単位) <ul style="list-style-type: none"> → ブロック単位での開催は実現 ・公的な研修に参加する場合は、事業所を不在にしても、研修参加時間を常勤換算し、減算や指導対象としないことを国が明確化する。 <ul style="list-style-type: none"> → 通常の勤務時間に研修参加時間を含めた介護職員の配置基準を介護報酬とする。
みやぎ小規模多機能型居宅介護連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・運営資金の確保をどうするか。 ・講師謝金、旅費、会場費、通信費等 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を19:00からなどに設定し、日勤が終わってからでも参加できるようにしている。 ・介護職員の懇親会を設定して、介護職員同士が交流して顔見知りになり研修会に参加しやすくなるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修費の支援 ・介護職員の給与アップ ・研修に参加した場合のキャリア
福井県小規模多機能型居宅介護事業所連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の手配等(連絡調整等に非常に時間がかかる場合がある) ・研修準備(どの事業所も毎日忙しく少人数で準備を行っている) 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ事前に研修案内を通知し勤務上の配慮ができるように ・参加し易い時間、場所に研修を開催する(平日午後が参加し易い、各事業所からの中間地点) ・可能なら、同じ研修を複数行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員に余裕がないなかで限られた職員が研修に参加できるという状態。この人員に関して何かあれば… ・研修参加費、交通費等が個人持の場合が多く、また個人の休みを利用して研修に参加している状態が多いと思う。これについては事業所内の課題だと思いますが改善されれば研修に参加し易い環境になるのではと思う。
大牟田市介護サービス事業者協議会 地域密着型サービス・介護予防事業研究会	<ol style="list-style-type: none"> 1)年間研修計画を実施するための体制づくり 現在、世話人会のみで企画しているが、研修部等を設置し、内容の充実を図る。 2)研修参加率を高める。現在、前事業所の約3割の職員が参加。研修内容の記録を行い全職員に伝達して、参加意欲を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)研修内容を速くとも1ヶ月前に広報し、参加集約を行う。 2)現場職員の理解を考慮して研修内容と運営を設定。 3)他事業所の職員同士が気軽に交流しあえるよう研修会とは別に懇親会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修の機会を増やすために、講師や指導者紹介、助成制度の支援【希望する講師や指導の内容】 認知症、認知症ケア、認知症ケアマネジメント(ライフサポートワーク)、センター方式の活用法、虐待防止と人権擁護
森島市小規模多機能ホーム連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ○日中の研修会開催であれば、業務があるため、参加できるスタッフが少ない。 ○有名講師をお招きすることは、スタッフの研修参加意欲を掻きたてることにつながるため、多くの機会を作りたいが、講師の旅費や謝金等の負担が連絡会の予算だけでは支出が難しい。したがって、県や市等の補助事業等を活用することが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現場スタッフ全員が参加できる機会を作るため、2名の講師に来て頂き、それぞれ午後、夜間の部の研修を実施してもらい、合計4回の研修を実施した。結果として市内の事業所、全スタッフが研修に参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各事業所の経営者に内部研修だけでなく、外部研修の必要性を理解してもらおう。 ○日中の1回の研修の場合、少しでもスタッフに参加させる場合のことを考え、スタッフを基準より多く配置しておく。 ○事業所の金銭的負担を軽減するため、研修参加費は無料、または低額な参加費を設定する。
久留米市介護福祉事業者協議会小規模多機能部会	<p>日時や時間設定によっては、人数が集まらないことも多く、連続したものや、多人数必要なものは困難を極める。特に、複数回の研修になると同じ職員がずっと参加して行くことが難しく、内容が深まらなかったりする。</p>	<p>時間外、夜間に設定することが多い。</p>	<p>参加したいと思われるように内容にも工夫が必要だが、十分に研修内容を深めるためにも、勤務で研修に行けるような人員体制が必要だと思う。</p>
福岡市小規模多機能ケアネットワーク	<p>講師謝礼等の金銭面での課題がある。加盟事業所は年会費を支払いそれをもとに研修を行っている。補助金等の助成があればありがたい。</p>	<p>毎月開催とし、多くの職員が参加できるように偶数月は昼間、奇数月は夜間に研修を行っている。 現場の職員同士が顔と顔でつながり仲間意識が芽生えるように心がけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○手厚い人員配置 ○研修の中身の充実(魅力) ○明るく前向きになれる集い
鹿児島市小規模多機能ホーム連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加できる時間の確保が出来ない。 ・決まった人が受講して、現場スタッフ全ての受講が出来ない。 ・予算がない。 ・保険者からの協力がもたれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ内容を複数時間帯で設定。 ・事業所への押しかけ研修会の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の理解。 ・現場の人員の確保。 ・参加しやすい研修会のあり方の研究。 ・研修会の資金の助成。
長崎市小規模多機能連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な研修を開催したいが、講師代等経費が必要となる。参加費を徴収すると、事業者や職員に負担がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場職員向けの研修会を開催する際は、参加しやすいように昼間だけではなく、夜に開催している。 ・参加費をなるべくとらなくていいような研修会にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員が参加費を負担しなくていいような形で研修会の開催。 ・職員が研修に参加しやすいようにするために、各事業所が安定した職員配置を行い、勤務態勢への配慮をする。 ・介護報酬の基本単価の見直し。 ・自治体との連携による介護職員の研修機会の確保。